

【一】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

寛政大学一年の蔵原走は、同じ大学四年の清瀬灰二に声をかけられ、竹青荘で一緒に住むことになる。竹青荘には、九人の寛政大学の学生が住んでおり、走を合わせて十人となった。「箱根駅伝に出よう」と清瀬が他の学生たちを誘ったことから、十人で箱根駅伝を目指すことになる。寄せ集めの陸上部員ではあるが、日々練習に励み、合宿を経て、ついに箱根駅伝の予選会に出場することになった。以下は、箱根駅伝の予選会が終わり結果発表までの待ち時間の出来事である。

ムサの背後を、見物客の一群が通りかかった。

「また黒人選手がいる。ずりいよなあ、留学生を入れるのは」

「あんなのがゴロゴロいたら、日本人選手はかないっこないもんな」

聞こえよがしなさやききに、ムサはサツと顔をこわばらせ、走は振り返って抗議しようとした。

① いいんです、走」

ムサが押しとどめる。「今日だけでも、ああいう意見をずいぶん耳にしました」

② あんな勝手なこと、言わせておけないですよ！」

走はなおも、遠ざかっていく見物客を追おうとしたが、ムサに腕をつかまれた。

「けんかはいけません。あのひとたちが言っているのは、陸上の才能を見込まれてやってきた留学生のことでしょう。私は恥ずかしいです。自分が恥ずかしいです。彼らには区別がついていないようですが、私の足は速くない。やつかまれるほどの才能もない、ただの留学生だからです。」

「そんなこと、関係ない！」

走は※憤然とした。③ムサさんも、俺も、今日、一位と二位を取ったひとたちも、同じコースを走ったことには変わりないですよ。それをあんな……」

どう言っているのかわからなかったが、走は悔しかった。ともに寝起きするムサも、自分自身も、会話を交わしたこともない他大学の留学生も、まとめて侮辱された気分だった。そうだ、うまく表現できないけれど、これは走りに真剣に向きあうものに対する侮辱だ。

走はAをいからせた。

「蔵原の言うとおりだな」

と声がした。振り向くと、頭をつるつるに丸めた、ひよる長い男が立っていた。

「だが、放っておけ。あいづらは、走るってことがわかっていないBだ。」

男は走とムサが見ているまえで、売店でウーロン茶を買った。どこかで会ったことがある。走は警戒を解かないままに、あわただしく記憶をさぐった。この、よく光る頭には見覚えがあるぞ。

「六道大の藤岡！……さん」

走は解答を導きだした。箱根で連続優勝している六道大学。そのキャプテンの、藤岡一真だ。春の東体大記録会で顔を合わせたきりだが、どうしてこのひとが、予選会になんか来てるんだろう。

走の疑問を読み取ったのか、

「敵状視察だよ」

と藤岡は言った。「寛政大はずいぶん強くなったな。箱根まで出てきそうじゃないか。」

藤岡には王者の余裕と貫禄があった。

「おかげさまで」

走は生来の負けん気が頭をもたげ、※昂然と答えた。藤岡は、一步も引かぬ視線を走と激突させてから、ムサを見た。

「ああいうやからは、気にしないほうがいい。ばかげた意見だ」

「どういうところがですか」

茶を飲みながら去っていくこうとする藤岡を、走は呼びとめた。見物客の、ムサへの言いぐさには腹が立つ。だが、どうして腹が立つのか、はつきりと把握できなかった。このもやもやの原因がどこにあるのか、藤岡はわかっているようだ。

④ 教えてください」

と走は頼んだ。藤岡は足を止め、おもしろそうに走を眺めた。「いいだろう」と、走とムサに向き直る。

「ばかげた部分は、少なくとも二つある。ひとつは、日本人選手が太刀打ちできないから、留学生をチームに入れるのはずるい、という理屈。じゃあオリンピックはどうするんだ。俺たちがやっているのは競技であって、お手々つないでワン・ツー・フィニッシュする幼稚園の運動会じゃない。身体能力に個人差があるのは、当然のこと。Cそのうえでなおかつ、スポーツとは平等で公正なものなんだ。

彼らは、同じ土俵で同じ競技を戦うとはどういうことかを、まったくわかっていない」

ムサは黙って、藤岡の言葉に聞き入っている。⑤ 走は、静かに繰りだされる藤岡の分析に、ただただ圧倒されていた。

「彼らのもうひとつの勘違いは、勝てばいいと思っっているところだ」

と、藤岡はつづけた。「日本人選手が一位になれば、金メダルを取れば、それでいいのか？ 断固としてちがうと、俺は確信している。競技の本質は、そんなところにはないはずだ。たとえ俺が一位になったとしても、自分に負けたと感じれば、それは勝利ではない。タイムや順位など、試合ごとにめまぐるしく入れ替わるんだ。世界で一番だと、だれが決める。そんなものではなく、変わらない理想や目標が自分のなかにあるからこそ、俺たちは走りつづけるんじゃないのか」

そうだ。走は、もやもやが晴れていくのを感じた。こういうことに俺は引っかけ、怒りを覚えたんだ。藤岡はすごい。走の感じたこと、言いたかったことを、いともたやすく解きほぐして言葉にしまった。

「箱根で待つ」

最後まで、王者にふさわしい態度で、藤岡は木々のあいだに消えていった。

（『風が強く吹いている』 三浦しをん）

※憤然 || 激しく怒るさま。

※昂然 || 意気の盛んなさま。

問一 —— 線部①「いいんです、走」とありますが、見物客に抗議しようとした走をムサが止めたのはなぜですか。その理由を説明したものとして適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 見物客の一团と同じような意見を一日に何度も耳にしたので、聞きなれてしまい、怒るほどのことではないから。
イ 冷静なムサは、走が見物客に抗議をして、けんかになると、予選会の結果発表に影響しかねないと考えたから。
ウ 走はチームメイトなので自分のために怒ってくれているが、実際に見物客が言っていることは間違いではないから。
エ ずるいと言われるだけの実力はないのに、才能がある留学生と同じような言われ方をされ、引け目を感じたから。
オ 見物客の言葉から才能がある他の留学生とは違うということを改めて実感し、けんかをする気力もなくなったから。

問二 —— 線部②「あんな勝手なこと」とありますが、走はどのような意見に対して「勝手なことだ」と感じたのですか。次の空らんに入る語を本文中から八字でさがし、ぬき出して答えなさい。

日本人選手は、留学生には ので、留学生を選手として起用するのはずるいという意見。

問三 —— 線部③「ムサさんも、俺も、今日、一位と二位を取ったひとたちも、同じコースを走ったことには変わりないですよ」とありますが、走が思う「ムサさん」「俺」「今日、一位と二位を取ったひとたち」に共通しているのはどういう点ですか。十五字以内で答えなさい。（「、」「や」も字数に入れます。）

問四 A に入る漢字一字として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 胸 イ 肩 ウ 耳 エ 腰 オ 手

問五 B に入る語として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 素人 イ 達人 ウ 玄人 エ 大人 オ 新人

問六 —— 線部④「教えてください」とありますが、走はどのような気持ちからそう言ったのですか。それを説明したものとして適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 見物客のムサへの言いように腹が立ち、抗議しようとしたがムサに止められ、いきどころのない怒りに苦しむ気持ち。
イ 結果発表までの待ち時間のときに、ムサに、留学生を選手に入れるのはずるいと言って通った見物客に腹が立つ気持ち。
ウ ムサに余計な一言をささやいた見物客に対しての怒りの原因は何なのか、自分でも明確に理解できず心が晴れない気持ち。
エ ムサを個人的に批判する言葉をささやいて通った見物客に、言い返すことができなかった自分を恥ずかしく思う気持ち。
オ 見物客がムサに言った言葉は、なぜ腹が立つのかわからないというもやもやが原因で、自分自身を見失い悲しい気持ち。

問七 Cに入る語として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア なぜなら イ しかし ウ あるいは エ まして オ ところで

問八 — 線部⑤「走は、静かに繰りだされる藤岡の分析に、ただただ圧倒されていた」とありますが、一つ目の藤岡の分析とはどんなことですか。次の文の①と②に入る適切なことばをそれぞれ本文中から指定の字数でさがし、ぬき出して答えなさい。

人の能力に①（六字）②（五字）①（六字）②（五字）
なかがスポーツであるので、留学生を

チームに入れるのはずるいという理屈はばかっているということ。

問九 藤岡の話を通して、走は「駅伝という競技」ではどんなことが大切だと改めて気づきましたか。本文中から二十字以内の部分さがし、「……こと。」に続く形でぬき出して答えなさい。

【二】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

海外旅行をする方法は、大きく二つにわかれます。

一つ目が旅行会社やNGOなどが主催するツアー。これに参加すれば、職員の人たちが宿泊先から見学先まですべて案内してくれて、短い期間でAよく見所を回ることができます。

二つ目が、①一人旅です。こちらはチケットやビザの手配から宿泊先探しまであらゆることを自分で決めなければなりません。旅の目的によって、どちらを選ぶかは違ってきます。短い時間でA的に回りたいのならばツアーを選ぶべきでしょうし、自分のペースでゆつくりと歩きたいのならば一人旅を選ぶべきでしょう。かならずしも、どちらがいいと断言することはできません。

B、私は若い人には一度でいいから一人旅を体験してほしいと思います。ツアーに参加したり、友達と一緒に
行く、一から十までをすべて自分で決める旅をしていただきたいのです。

なぜか。それは、②一人旅でしか得られないことがあるからです。

一人旅でしか得られない体験は無数にあります。広い意味で共通するのが「自分の弱点を知る」ということです。海外に一人で身を置くと、日本にいては気づかない己の弱さをこれでもかというほど見せつけられるものです。

私自身、旅をはじめた頃はまさにそんなことの連続でした。日本にいて自分は大抵のことはできるような気がします。どこへだって一人で行けるし、何だって食べられるし、困ったことがあっても直感と要領で何とか乗り越えられる、と。当たり前です。日本人なわけですから。

でも、日本を一步離れば、まったく違う現実をつきつけられる。電車やバスの乗り方もわからない、レストランのメニューを見ても何の料理のことか見当もつかない、歩いていたらいつのまにか、【安の悪い場所に迷い込んでしまっている。通りがかりの人に尋ねようにも、どういう表現で尋ねればいいのかわからないし、尋ねたところでいい加減な返事をされて追い払われてしまう……。

自分が持っている知識も本当に小さなものでしかありません。私は初めて海外へ行くまで、自分がそこそこ物を知っている人間だと思っていました。しかし、パキスタンで小学生ぐらいの子供に宗教論で言い負かされてしまった時、自分が宗教について何にも知らないのだという現実に向き合わなければならなくなりました。イスラーム世界で生きている彼らと比べると、自分はほんのうわべの知識をお勉強として学んだことがあるに過ぎなかったのです。

海外でのこうした体験の中から気づかされるのは、それまで自分が普通に生きてこられたのは日本という環境があったからだということです。家族がいて、言語がわかり、常識が通用し、国が守ってくれているからこそ、日常を「さしたる困難もなく過ごすことができたのです。でも、^③その環境が取っ払われたら、何にも支えてもらえない裸一貫の自分があらわになるだけ。赤ん坊と同じ、裸一貫で何にもできない現実を思い知らされるだけなのです。

一人旅をした人は、**C** 現地で次の三つを痛感するでしょう。

- ・ 勇気のなさ
- ・ 知識のなさ
- ・ 己の※狭量さ

こうした己の弱点から目をそらす方法はいくらだってあります。ツアーに参加すれば助けてくれる人が傍にいますので裸の無力な自分を突きつけられることはありません。そもそもそういう自分を見るのが嫌だから外国へ行かないという人だって大勢いるでしょう。人間であれば、自分の無力さに直面するのは嫌なものです。それを体験することなく、ぬくぬくと生きていきたいと願うのは不思議なことではありません。

しかし、自分の弱点を直視するとは、これから先何かを成し遂げるために埋めていかなければならないことをはつきりと自覚することと同義です。自分にはどの部分の※^④気概が足りないのか、語学のどこが弱いのか、^⑤なぜ違う価値観を受け入れられないのか……若いうちに一人で海外へ行くと、そうしたことがはつきりとわかるので、^⑤自分の課題が明確になるのです。

若い人は、なるべくこうした経験をして、自分に足りない部分を認識しどんどん埋めていかなければなりません。

グローバル化された世界の中では、日本で一般に考えられている「必要なこと」と世界におけるそれとの間には大きな隔たりがあります。世界基準で多くの欠点を見つけて埋めていかなければ、広く何かをやるうとした時に物事は通用しません。

しかし、人がある程度自分に足りないところを埋めるには長い時間がかかるものです。最低でも数年という歳月が必要になる。いや、本当をいえば一生やりつづけないといけないことなのです。だからこそ、人はできるだけ早いうちに自分に何が欠けていて何を埋めなければならぬのかを認識する必要があるのです。

※狭量 II 他を受け入れる心が狭いこと。

※気概 II 困難にも屈しない強い意気。気骨。

(『僕らが世界に出る理由』 石井 光太)

問一 二つある **A** に入る語として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 要領 イ 効率 ウ 合理 エ 機能 オ 加減

問二 **B**・**C** に入る語として適切なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

B ア むしろ イ なぜなら ウ それゆえ エ とはいえ オ 要するに
C ア 決して イ かならず ウ おそらく エ あるいは オ ただし

問三 線部 a が「社会の状態がよくなる危険な」という意味になるように、「**【**」に漢字一字を入れなさい。

問四 線部 b の語の意味として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア たいした イ いつも ウ まったく エ きびしい オ 絶対に

問五 線部 ①「一人旅」とありますが、筆者は「ツアー」と対比させながら、「一人旅」のことをどのような旅と言っていますか。本文中から二十字以内の部分さがし、ぬき出して答えなさい。

問六 線部 ②「一人旅でしか得られないこと」とは、どういうことですか。本文中から十五字以内の部分さがし、ぬき出して答えなさい。

問七 線部 ③「その環境」とは、どのような環境ですか。本文中のことばを使って三十五字以内で答えなさい。(「**「**」や「**」**」も字数に入れます。)

問八——線部④「なぜ違う価値観を受け入れられないのか」とありますが、「違う価値観を受け入れられない」のは、自分にどのような弱点があるからですか。その弱点にあたることばを本文中からさがし、五字でぬき出して答えなさい。

問九——線部⑤「自分の課題」とは、どういうことですか。それが表現された三十一字の部分を本文中からさがし、最初と最後の五字をぬき出して答えなさい。

問十 本文で表現された筆者の考えと合っているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の弱点を埋めていくには時間がかかるので、人は若いうちに一人旅をした後は、ツアーに参加して多くの人と関わりとよい。
- イ ツアーに参加することによって、裸の無力な自分を周りの人に知ってもらい助けてもらうという、生きていく上で大切なことが学べる。
- ウ 安全に一人旅をするためには、語学力や交通機関の利用の仕方、地理的な知識、宗教観の違いなどを身につけておかなければならぬ。
- エ 一人旅をすることで自分の語学力のなさを知り、若いうちから語学の勉強していかなければ、世界で通用する人物になることはできない。
- オ グローバル化した世界で通用することをしていくには、世界における「必要なこと」と日本でのそれとの差を認識しておくことが大切である。

【三】次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～⑩の——線部のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを書きなさい。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ① 青空をウツした湖面が広がっている。 | ⑥ ボクジヨウで牛を飼育している。 |
| ② 街中のロケ現場に人がムラがる。 | ⑦ 作品のすぐれた点をレッキヨする。 |
| ③ 有名な選手がインタイを決意した。 | ⑧ 「うそも方便」という言葉もある。 |
| ④ 水不足はシカツ問題だ。 | ⑨ 夏の天候によって米価が変動する。 |
| ⑤ 円は、日本のツウカの単位だ。 | ⑩ ここが研究の眼目としてきたところだ。 |

問二 次の①～④の□に入る漢字一字を書きなさい。

- ① 恥ずかしくて□の置きどころがないほどだった。
- ② 彼の仕事ぶりは□の打ちどころがなかった。
- ③ いつまで言い合っても、結局は□かけ論だ。
- ④ 部員たちの成長を□い目で見ていてほしい。

問三 次の①～③の各語には、それぞれある共通点があります。それと同じ共通点を持つ語をあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 少数——到達——平均——沸騰——最高
- ② 都合——十分——公平——得意——景気
- ③ 口火——読解——進行——先手——手下

ア 自然 イ 分岐 ウ 販売 エ 常識 オ 質素

